

疑問・質問



知識・情報



Q & A

病室テレビのイヤホン使用を徹底してください。

Q 4人部屋でボリュームを上げてテレビを見ている人がおり、患者同士のトラブルの元になっています。提案として《テレビをごらんの際は、イヤホンをご使用ください》のシールをテレビに貼ってはどうか？

A 同室の患者さんがおられる場合には、テレビをごらんになるときはイヤホンをご使用していただくよう入院案内等をお願いしておりますが、ご提案のようにテレビにシールを貼ることにより、ご協力をお願いすることも効果があると思われまので、できるだけ早い時期に実施したいと思っております。



清涼飲料水ナイショの話

暑さに向かう季節となりました。夏に向かうとつい手が出てしまうのが、炭酸飲料や乳酸飲料をはじめとした清涼飲料水です。

今ではコンビニエンスストア、自動販売機がわれわれを待ち受け、何時でも何処でも手に入るのがこの清涼飲料水です。自動販売機の設置台数は昨年で全国40万台だそうです。

最近ではダイエットブームを反映して、低エネルギー（低カロリー）飲料が売れ筋だそうです。ところが糖分やエネルギーに関する検閲表示には様々なものがあり、一見同じようでもその意味は違ってくる。そこで今回はラベルに低エネルギーを強調したさまざまな清涼飲料水の表示例について考えてみることにしましょう。

【ノンカロリー】(またはカロリーゼロ)

エネルギーになる成分が含まれていないという旨の表示です。ところが100g当たり5キロカロリー未満でエネルギーになる成分が含まれています。

【ノンシュガー】(またはシュガーレス、無糖)

糖類は含まれていないが、低エネルギー甘味料で甘みをつけています。100ミリリットル当たり糖類0.5g未満含まれています。

【カロリーオフ】

飲料100ミリリットル当たり、糖類などでエネルギー20キロカロリー以下におさえています。

【糖分ひかえめ】(または低糖)

糖分が少ないという旨の表示で、糖類の含有量が100ミリリットル当たり、2.5g以下におさえています。

【砂糖不使用】

法的な規制からはずれていますので、甘さひかえめで糖分が少ないとは限りません。

上記以外では、スポーツ飲料といわれる商品も350ミリリットル当たり、ご飯お茶碗半分位のエネルギーを含んだ商品もあります。

どうです！ダイエット飲料に少し裏切られた気がしませんか、やはり夏の暑いとき、ダイエットを心掛けるならば、日本茶、ウーロン茶、ハーブ茶、ミネラルウォーターあたりが無難なようです。

Calorie
Sugar



〒580-8565 豊中市柴原町4丁目14番1号 TEL (06)6843-0101(代表) FAX (06)6858-3531
(URL)http://www.chp.toyonaka.osaka.jp/

編集・発行:市立豊中病院広報委員会(病院管理課) 発行日:平成15年(2003年度)7月

創刊号 Vol.1 病院だより

市立豊中病院ニュース
TOYONAKA MUNICIPAL HOSPITAL

基本理念

豊中市の地域中核病院として

『心温かな信頼される医療』

を提供します。

「病院だより」の発刊にあたって

豊中市長 色 貞 輝



高齢化社会の進展とともに、医療や健康に対する市民の皆さまの関心はかつてなく高まっており、今病院には病気の治療のみならず、患者さんの立場に立った良質なサービスの提供が求められています。一方国においては、効率的な医療供給体制の再構築を目的として、さまざまな医療制度改革が進められており、この制度改革の目指すものは病院の機能分担であり、病院は地域において自らの果たすべき役割を明確にすることが必要となってきました。

このため現在、豊中病院では急性期医療を担う地域の中核病院として「良質な医療を効率的に提供する」という視点にたつて、患者さんの満足度の向上、医療の質の向上、地域医療機関との連携、経営状況の改善など、病院運営全般にわたる見直しに取り組んでいます。

しかしながら、市民の皆さまの医療に対するニーズ全てを満たすことは難しく、見直しに際しては、病院がかかえている現状や課題を市民の皆さまにより具体的にお知らせし、ご理解を得ることが最も重要だと考えています。

豊中病院では、これまでから市の広報誌や病院ホームページを通じて情報提供を行ってまいりましたが、今後はこの「病院だより」を通じて、医療や病院に関する有意義な情報を市民の皆さまに提供することによって、市民の皆さまと病院との距離がより身近なものになればと思っています。

「病院だより」創刊のごあいさつ

病院長 松山 辰 男



豊中病院では、新築移転以来、「心温かな信頼される医療」の提供を基本理念として、市民の健康を守るため、安全で質の高い医療をできる限り多くの方に提供すべく、努力をこらして5年半が経過いたしました。

その間に、厚生労働省より臨床研修指定病院や地域がん診療拠点病院の指定を受けるなど、市域を超えた地域の中核病院としての役割も担ってまいりました。

このため、開院当初から、一般外来、救急受診、入院のいずれにおいても、人的・構造的に診療能力を超えた多くの患者さまが来院されたことにより、当院の対応が、不親切・不行き届きと感ぜられるところも、少なからずあったのではないかと思います。

このたび、市民の皆さまに病院の実状をご理解願ひ、一方で、ご意見・ご提言をいただくために「病院だより」を発刊することになりました。今後、紙面を通じて、病院に関するいろいろな情報や診療の仕組みなどをお知らせしてまいりますので、ご理解・ご協力ならびにご批判・ご提言もいただき、さらに心温かな信頼される病院を目指して、職員一丸となって努力してまいりたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。